

## 第3回 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方 検討会における委員指摘対応表

### 1 第1章 まちづくりプラットフォームの概要

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○ステークホルダーの人々が今までどのようにまちづくりに関わってきたか、具体的に示す例・写真等を入れると読み手にとってもイメージが湧きやすくなり、良いのではないか。	田頭 委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分に区内の事例を掲載し、誰がステークホルダーで、どのように合意形成・意思決定がなされたかを記載する。
○1章において、わかりやすいイントロダクションとしてまちづくりのイメージを想起させているが、2章の書き方により分かりにくくなっていると考え。	出口 委員長	
○協議会における合意形成には様々なパターンがある。外圧がかかって止まってしまっているようなものは、まちづくりプラットフォームで解決できるかは疑問に感じる。協議会の中に賛成・反対の両方が存在し、何か支援があればどうにかできたかもしれないようなケースであれば、まちづくりプラットフォームが有効に機能するかもしれない。このような具体的な事例をイメージして議論を進めると、より良い素案ができるのではないか。	小松 (語) 委員	
○1ページを見ると、まちづくりプラットフォームのサポート対象が協議会のみに見えるが、一般の人々が何らかのまちづくりに関わることは想定していないのか。	内海 委員	■第1章「1 まちづくりプラットフォームとは」について、まちづくりプラットフォームが、協議会等の立ち上げから運営までを含む「まちづくり」全般の「合意形成」を支援するものであることが分かるように修正する。
○まちづくりプラットフォームは協議会等を応援する立場だと考える。まちづくり協議会等の活動の課題と必要な外部リソースを明確にすることが、まちづくりプラットフォームの機能について考えるにあたって必要となる。まちづくりプラットフォームは、もめているところに行って解決するというより、もめごとを予防する意味合いが強いと考える。そのためには協議会のメンバーや運営体制が重要であり、もう少し協議会の部分をふくらませないとまちづくりプラットフォームの機能の整理ができないと考える。	杉崎 委員	■まちづくり協議会等の課題等を把握するため、まちづくり協議会等へのアンケートを実施し、第1章「まちづくりプラットフォームの概要」への追記を行う。
○9ページの図の地域の情報の共有や課題の設定と、7ページの都市計画マスタープランが結びつかない。	金子 委員	■第1章「5 位置づけ」について、位置付けを示す図は、行政上の位置づけであることを明記する。
○7ページの図は、千代田区の行政上の位置づけであり、枠組みを示す図であると捉えてもらったほうが良い。	出口 委員長	
○まちづくりプラットフォームは何らかの問題が起きているところを対象にするのか、それ以外も対象にするのか、それによって検討の幅が大きく変わるので、明確にして委員の共通認識にする必要がある。	内海 委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分に追記する。

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○8ページに「まちづくりの合意形成」とあるが、まちづくりは様々なものがあり、何を指しているかが分からない。千代田区のまちづくりには、再開発等のハード系の大規模なものから地域のお祭りまで、幅広いものがある。千代田区の中でどのようなケースがあるか提示し、その総体が「まちづくり」であるということをしかり示す必要があると考える。この冊子を活用してもらうには区民がまちづくりのイメージを想起できるような資料やページなどを作ったほうが良いと考える。	出口 委員長	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分や第2章「1 まちづくりの合意形成で得られるもの」の記載修正を行うとともに、図・事例の追加を行う。
○まちづくりプラットフォームがまちづくりに介入するタイミングもある程度想定して、あり方素案を作ったほうが良いと考える。協議会がまだないところに対しても支援するべきか、あり方でカバーするのかわからないのかをはっきりするべきである。	出口 委員長	■左記の議論を踏まえ、第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分や第3章「まちづくりプラットフォームのあり方」の記載を修正する。
○協議会を作るところが重要であり、そこをサポートすべきだと考える。一方で、まちづくりプラットフォームの目的から考えてもっと絞り込んだほうが良いということであれば、それも有り得ると思う。	内海 委員	
○まちづくりプラットフォームは、協議会のメンバーや会議の進め方等、協議会のあり方にも介入すると考える。介入するタイミングは、協議会ができる前かできた後かという点についてはあまり差がないと感じる。	出口 委員長	
○1ページでは、まちづくりプラットフォームという組織を作るだけではないという点を踏まえて、協議会に働きかけていくこともまちづくりプラットフォームの役割に含まれることを示せるように図を修正してもらえると良い。協議会の作り方や既存の組織の改善にも働きかけていくのかという点についても書き込むのか確認してほしい。	出口 委員長	
○地域の実情に合わせて支援とあるが、その想定は3章に書かれているため、全体像を概括できる図を最初に示せるとよい。地域を超えたテーマは今回対象としないと対応方針にあったので、各地域の課題も図に書き込めると良い。地域の実情に合わせた支援という一言だけでなく、ある程度具体的に書けると、1ページの図で冊子の全体像がある程度分かる。ステークホルダーまで入れるとごちゃごちゃすぎるので、まずは1章から3章までの全体が分かるようにすることが重要ではないか。	日永 委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の記載と図を修正する。
○「意思決定」という言葉のイメージも共有されていないため、慎重な議論が必要である。意思決定は制度や法律に基づいて行われ、誰が行うかも決まっている。合意形成のプロセスは、意思決定に影響を与えたり材料を提供したりするものであり、合意形成が区の意思決定になるわけではないという点を確認しておく必要がある。	杉崎 委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分に「意思決定」と「合意形成」について記載し、あり方素案の全体の流れを明確にする。
○合意形成と意思決定は全く異なり、意思決定は千代田区全体の意思として徹底されるものである。できるだけ多くの人々の意見をふまえて合意を図ろうとしているのが、このまちづくりプラットフォームである。	内海 委員	
○一つの方法として、7ページの位置づけのところに、意思決定と合意形成の整理を加えてはどうか。また、意思決定には都市計画審議会等のオフィシャルなプロセスがあり、地域のお祭り等についてはそれぞれの自治体に意思決定のプロセスが定まっている。その中に合意形成をどのように組み込むか、ということが問題である。	出口 委員長	

## 2 第2章 まちづくりの合意形成

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○第2章で、合意形成で得られるものとして5つあるが、1から4は合意形成のプロセスを通じて得られるものであり、合意に至っても至らなくても得られる。5は合意形成のゴールの一つであり、ほかにも様々なゴールがあると考ええる。	杉崎委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分に「まちづくり」に対する説明と合わせて、合意形成と意思決定について追記する。
○1から4は合意形成のプロセスにおいて副次的に得られる効果という印象を受けた。住民は日常生活において合意形成をしたいと思っていない。合意形成が本当に必要だと感じているのは行政側である。住民は、住環境を良くしたい、緑を増やしたいといった要望を持っており、それらを実現することが合意形成の意義だと感じる。ただ、それらに向けては一定の法律やルールを守ったり、意向を調整したりすることが必要なので、要望に直結はしないが、実現のために合意形成が必要になってくるということを説明する必要がある。合意形成があるからこれが得られるということではなく、なぜ合意形成が必要なのか、実現したいことのためには合意形成が必要だという説目が前提として必要であり、その上で副次的な効果が得られ、そしてさまざまにまちづくりが展開されていくと考える。	内海委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分に「まちづくり」に対する説明と合わせて、合意形成と意思決定について追記する。そのうえで、第2章「まちづくりの合意形成」の流れに沿った形で現行の「合意形成で得られるもの」を修正する。
○合意形成という言葉がしっかり説明できていないため、一般論として合意形成の定義を提示したほうが良いと考える。その上で、合意形成のプロセスから得られるものを2章で提示したほうが良い。全体の構成は良いと思うが、読み手の立場に立って表現の仕方等を工夫していただきたい。目次構成や全体の構造についてはご指摘いただいていないので、表現や説明などを丁寧にやっていただけると良い。8ページの1～3はプロセスを通じて一人ひとりの心の中に生まれるものであり、4・5は外部に対してアウトプットされるものである。それを踏まえたうえで合意形成のプロセスで得られるものとしたほうが良い。	出口委員長	■ご指摘の通り、第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分と第2章「1 まちづくりの合意形成で得られるもの」を修正する。

## 3 まちづくりプラットフォームのあり方

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○15 ページ (3) に、ツールの提供とある。例えばまちづくりプラットフォームが decidim のようなツールをどう採用するのか、外部の意見を協議会の話し合いにフィードバックしていくことは考えられる。そのほか世論調査のようなツール等をうまく使いながら補完できないか、といった意味でツールの提供と言っていると考えているが、もう少し整理して表現する必要がある。	印出井委員	■ご指摘のとおり記載を修正する。
○データベースやツールで、協議会に入っていない人たちの声を集めると、協議会の立ち上げまでが非常に大変になるので、その支援が必要だと考える。	内海委員	
○一般の人々からは意見を聞くだけなのか。第4章に「みんなで取り組む」とあり、住民もまちづくりにアクティブに参加して、意見も聞くという形がよいと考える。	田頭委員	■まちづくりプラットフォームが協議会等を支援することでどのような作用がおきるかということが分かるように、第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分の図を修正する。

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
<p>○地域コミュニティをしっかりと作ることが合意形成には重要ということだと考える。まちづくりコミュニケーターが地域の情報や課題を詳しく把握し、何が必要かを住民にしっかりと伝えて共有できるように育成することが大事だと考える。まちづくり協議会は実際に機能しているのか。うまくいっている協議会があればその検証も必要ではないか。</p>	小笠原委員	
<p>○協議会や検討会という言葉だけではなく、組織のイメージをつかめるようにうまくいっている協議会の事例を紹介いただけると良い。</p>	出口委員長	<p>■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」にまちづくり協議会等の事例を追加する。</p>
<p>○まちづくりプラットフォームには裁判所のような役割はできないと考える。こういう工夫をすれば合意形成がうまくいったのではないかとこの反省のもとで検討しているのだと考える。頑張れば未然に防げたかもしれないような事案を起こさないように支援することを、まちづくりプラットフォームの機能として備えるべきと考える。</p>	小松(語)委員	<p>■ご指摘を踏まえ、第3章「4まちづくりプラットフォームの機能」を修正する。</p>
<p>○協議会のメンバーや議論の進め方は、まちづくりプラットフォームの支援の対象になるべきだと考える。</p>		
<p>○まちづくりプラットフォームが協議会に近づいている図と離れている図があるなど、まちづくりプラットフォームの根底にある姿勢として、現場の議論と距離を置こうとしている印象を受ける。また、まちづくりプラットフォームの概念が1ページにおいて十分に示されていないと考える。1ページの図では、まちづくりプラットフォームが土台のようになってそこから矢印が出ているが、一方通行に支えて距離を置いているように見える。まちづくりプラットフォームが組織のみを指すのであれば組織を作れば良いが、あり方は13ページにあるような組織だけでなく、適切な情報を適切なタイミングで流したり支援したりと、アジャイルな動き方を。一定の距離をおいてキャッチボールするようなイメージで捉えるのか、矢印まで含めた範囲もプラットフォームとするのか、その点をはっきりさせる必要がある。</p>	出口委員長	<p>■ご指摘を踏まえ、図を修正する。</p>
<p>○2ページでは、まちづくりの定義を整理して、その中にステークホルダーがいることを説明できると良い。その上で8ページでは、合意形成のプロセスから得られるものを、参加者にインプットされるものと、アウトプットされるものの2つに分けていただく。9ページからの図について、軸の取り方が、9ページは上から下、13ページは左から右、となっているため、時間軸をそろえた方が良い。11ページの図も時間軸で捉えてもらったほうが良い。それぞれの図の役割を考えて整理してほしい。13ページの図の螺旋もいくつかのプロセスに分かれると思うので、それぞれを指す矢印が何を示すか補足すると良い。そうすると3章のまちづくりプラットフォームのあり方がもう少し具体的に見えてくると考える。14ページからはまちづくりプラットフォームをツールとして捉えた場合の機能の説明になるので、13ページの矢印の中に反映される必要がある。</p>		
<p>○第3章の12ページに「新規立ち上げ」とあるので、協議会の新規立ち上げから介入することを想定していると解釈する。また、今回から、すでにある協議会の再検討も機能に含まれると感じた。新規立ち上げから介入する場合、3章や4章の細かいところまで見ないとまちづくりプラットフォームが様々な形で理解されてしまうという点が今回の議論の中身であると考え。文章では、最初にまちづくりを飛ばしてまちづくりプラットフォームの説明から入っているが、千代田区において想定されるまちづくりについて述べても良いのではないか。</p>	日永委員	<p>■ご指摘を踏まえ、第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部をわかりやすく修正する。</p>

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○まちづくりプラットフォームは、活動を進めていくためのリソースを持って良いのではないか。専門家の集団だけでなく、まちづくりに協力してくれる人たちも入って良いと考える。	杉崎委員	⇒具体の構成等については、現在示しているものを基本の枠組みとしつつ、地域の実情やまちづくりの内容等に応じて柔軟に対応する。
○行政が図に含まれていないが、行政に関わることも書いて良いのではないか。まちづくりサポーターズには、専門家以外にもまちづくりと一緒に応援する人がいても良いと考える。	杉崎委員	⇒基本的には、意見の整理から専門的視点からの意見を示すことや地域の実情に詳しい人からの意見等まで示すことだと考える。
○3章においては非常に重要な機能について触れている。まちづくりの合意形成に必要な要件として、11 ページに意見の整理という表現があるが、単なる整理だけなのか、あるいは調整をするのかによって、機能に大きく影響する。これをどこまで考えているか明確にする必要がある。	内海委員	■上記が分かるように記載を修正する。
○区長や議会、都市計画審議会などの意思決定をする機関に向けて、情報を整理して根拠として提供することに意味があると考え。合意形成をサポートすることもあり得るが、目標としては意思決定の根拠をまとめていくことも重要な機能だと考える。	内海委員	⇒ご指摘のとおりだと認識している。 ■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分でまちづくりにおける意思決定と合意形成を整理し、記載を修正する。
○意見を整理するという事は、集約するという意味を多分に含むので、そこが伝わるようにする必要がある。	出口委員長	
○議論の持っていく方で合意できる話があったり、意思決定の場がしっかりしていないことで間違った方向に行ってしまうものがあると考え。	小笠原委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分でまちづくりにおける意思決定と合意形成を整理し、記載を修正する。
○意思決定の場は何らかの形で必ずある。その意思決定の場とまちづくりプラットフォームがどういう関係にあるのかという点を、あり方素案において整理する必要がある。	内海委員	
○意思決定と合意形成の使い分けをしっかりとすべきだと考える。	出口委員長	
○意思決定には、様々な正しい情報が必要となるため、まちづくりプラットフォームにおいて情報の整理をする、という関係性の整理が必要である。	内海委員	
○ICT プラットフォーム等で議論している内容が意思決定にもどのようにつながるのか・関連するものであるのかを見える形にすることでまちづくりプラットフォームの機能が大きく変わるのではないか。また、一区民として感じる事として、区が今回の様に、合意形成のあり方についてこのような検討会を開き、参加者は熱心にあるべき姿を議論され、区側も、区民を判断しない様な方策について一生懸命考えているものの、昨今のメディアニュース上では区は「一方的」あるといった批判を良く見るため、色々なことが現状つながっていない課題を強く感じる。まちづくりプラットフォームで、今日提示頂いた過去の議論に係る資料を含めて、疑義が生じている事態の経緯等を俯瞰的に誰もが見ることができるようになると、一部の事象だけ切り取られた批判だけで終わるのでなく、建設的な議論にもつながるのではないか。意思決定や合意形成プロセスの全体像を共有するとともに、区民と行政が双方向的にコミュニケーションを図る場をつくり、各議論と意思決定プロセスの関係を把握できること等が合意形成を促進する要素として重要ではないか。	田頭委員	■ご意見を踏まえ、第3章「4 まちづくりプラットフォームの機能」及び第4章「みんなで取り組むまちづくりに向けて」に記載を追加する。

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○まちづくりプラットフォームで合意形成を支援して、議会を通し、さらに都市計画審議会を通して最終的に区が意思決定を行う、という流れだとすると、まちづくりプラットフォームは単に話をややこしくしているだけではないか。	三原委員	<p>■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分でまちづくりにおける意思決定と合意形成を整理し、記載を修正する。</p>
○まちづくりプラットフォームが意思決定とどのような関係にあるかを整理する必要があると考える。様々な人の意見を踏まえて対立を整理し、混乱しているものを明確化した情報を法律上定められた意思決定の場に提供することがまちづくりプラットフォームの一つの役割ではないか。また、役割が明確化していないと実装の際にどのような立場で入っていいかわからない上に、入ったとしても混乱を招く必要がある。	内海委員	
○対立がないという前提で話すと、まちづくりプラットフォームは協議会に議論の場づくりのアドバイスや技術的支援を行う存在であり、何か意見を持つ立場ではないと認識している。	杉崎委員	
○意思決定のプロセスは法律や条例で定められており、変わることはない。そのプロセスに、まちづくりプラットフォームという合意形成のプロセスや住民の声がどのように反映されるか、という話だと考える。	出口委員長	
○地域の協議会においてまちづくりのルールなどを議論し、うまくいかなかった場合まちづくりプラットフォームに支援を求めて、協議会の中で整理がされた段階で区の意思決定に進むという流れだと考える。協議会の中で賛否がわかってもめた場合、まちづくりプラットフォームが助言等をした方がいいのかどうかは、協議会によって状況が異なってくる。最終的な意思決定は区が行うという流れを整理して11ページや7ページなど、どこかに記載した方が良い。	加島委員	
○以前、地区の協議会に参加して感じたことであるが、実は前から検討されていた事象であっても、その協議会の参加者からすると初耳のことと認識されてしまい、検討する時間も不十分である状態で意思決定されるものと捉えられ、「一方的」という批判が生じることもあった。このようなプロセスにならないよう、このまちづくりプラットフォームでプロセスや時間軸を共有して区民等の対話や参画を促すことが重要ではないか。	田頭委員	<p>■まちづくりのプロセスや時間軸の共有等具体的な内容については、「まちづくり推進の手引き」等で検討する。</p>
○本資料の中でどこまで細かく記載するかは要検討であるが、まちづくりの構成要素として制度やハード（施設分類）、ソフト（イベント分類）ごとにある程度の所要期間やプロセス等の全体像を共有するとともに、まちづくりプラットフォームが積極的にそれらのプロセスがスムーズにいくように調整・発信する役割が期待されるのではないか。		
○細かく書くとキリがないため、プロセスを支援することを強調して、具体的な機能はガイドラインのようなものできちんと作る必要があると考える。	出口委員長	

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○合意形成によってどうなるのかという根本的なところに説得力がないと、もめごとが起きた際にまちづくりプラットフォームまで上がってこないのではないか。	内海委員	<p>■まちづくりプラットフォームの機能と、具体の案件での対応を整理する。また、まちづくり協議会等へのアンケートを実施し、まちづくり協議会等の課題等を把握し、修正に反映する。</p>
○今後まちづくりプラットフォームができることによって、より双方向的なプロセスに実態としても転換できるのであれば意義深いと思うが、抽象論の議論だけではイメージを掴みづらいため、具体的な場所を想定して、ICTプラットフォーム等のプロトタイプを用いて実証するのが良いのではないか。	田頭委員	
○まちづくりプラットフォームがツールとして存在するのであればそのように感じられるが、今のまちづくりプラットフォームは、誰がやるか、どのようなメディアを使うか、どのような話し合いをするか、といったことがないままに概念として存在しているため、わからなくなっている。形になるものがない概念を方法論的につなぎ合わせているだけであるため、議論を追い切れなかった。	糸井委員	
○概念の世界で方法論を議論することの限界がある。方法論の議論であれば、もう少し具体的なものを共有し、まちづくりプラットフォームを作ることでもどのような良いことが生まれるか、ということにまた立ち返っていく方が良い。	出口委員長	

#### 4 みんなで取組むまちづくりに向けて

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○現在もマンションが増えており、今までの関わり方では町会がやっていけないため、マンション住民との関わり方を悩んでいる。新住民も巻き込んだ新たな地域まちづくりをしていけるようになるとうい。	小松(恵)委員	<p>■第4章「みんなで取組むまちづくりに向けて」にまちづくりに関わらない人の意見も拾っていただける旨、記載を修正する。また、第1章「1 まちづくりプラットフォームとは」について、まちづくりプラットフォームが、協議会等の立ち上げから運営までを含む「まちづくり」全般の「合意形成」を支援するものであることが分かるように修正する。</p>
○新住民を巻き込んだ組織の作り方が重要である。組織の立ち上げからまちづくりプラットフォームが支援することを検討しても良いのではないか。	出口委員長	

## 5 その他全体に関する内容

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○町会のメンバーに、まちづくりプラットフォームや協議会についてわかりやすく説明できるようなツールがあると良い。	小木曾委員	■素案の簡易版を作成していくことを検討する。
○なぜこの検討会を開いているのか、という点から実はよくわかっていない。まちづくりプラットフォームを作ることが既に決まっており、それができると何かが前に進むのか、あった方がいいのか、といったことがわからないまま細目を検討している。目的があって検討するのが会議であるため、どこにたどり着きたいのかイメージが定まっていないまま検討する会議は無駄だと考える。	糸井委員	■第1章「まちづくりプラットフォームの概要」の冒頭部分に「意思決定」と「合意形成」について記載を整理するとともに、まちづくり協議会等へのアンケートを実施し、まちづくり協議会等の課題等を把握することで、追記を行う。
○もめごとを起こさないための方法について、行政で考えても不十分であるためいろいろな意見が聞きたいということであれば、何らかの話ができると思うが、まちづくりプラットフォームで解決する道について検討しよう、という話であれば何も言えない状態である。今は回り道を繰り返していてわからなくなっていると感じる。	糸井委員	⇒検討会においては、もめごとを起こさないためにどのような支援があればよいか検討してもらうように整理していくことが重要だと考えている。
○資料にもとづいて議論してきたが、その前段で趣旨を統一させた方が良い。	出口委員長	■検討会とは別に部会等を設け、詳細な内容等については部会で議論するなど役割整理を行う。

## 6 議論の整理に関する対応内容

整理内容	対応内容
○今日の議論を踏まえて、資料に具体的なケース等を取り入れて、まちづくりプラットフォームを作ることによってどう良いことがあるかを具体的に確認し、それを再度概念に反映させる、というプロセスを取っていただきたい。方法については、有識者の意見を聞いてまとめる。	■資料についてはご指摘のとおり修正する。また、検討会とは別に部会を設け、詳細な内容等については部会で議論するなど役割整理を行う。
○実証実験に関しては、まちづくりプラットフォームを作ることによる良い効果や具体的な活動を確認することを目的とする。	■次回の検討会にて実証実験を共有する。